

伝統工芸品「安松箆（ざる）」製作 実演見学会

記 2022—4—25

野老澤の歴史をたのしむ会

小林典子

- ◆ 見学会実施日 2022年（令和4年）4月21日（木）10：30～12：00
- ◆ 匠の技講習・実演 上安松 越阪部 栄氏
- ◆ 参加者 11名

見学会

「安松ざる」の歴史は古く、1486年の『廻国雑記』にも安松の竹細工と推定される記述がみられ、1800年代に編纂された『新編武蔵風土記稿』の上安松村の項には「安松箆」の記述があり、農家の重要な副業であった。

一時は200人以上いた竹細工製作者は、今回私達が見学にお邪魔した越阪部栄氏が把握している限りでは、越阪部氏おひとりという状況である。（ところざわ歴史物語 平成19年発行より一部抜粋）

安松ざる見学会は4月21日に越阪部氏が日頃ざる作りをなさっている氏の中庭で行われた。参加者が到着すると、箆の製作過程がわかるようなサンプルや、当日の箆作りに用いる2ミリほどに裂いた細長い竹、また氏の家が代々使い続けて来た家族用の大小の箆が整然と並んでいた。飴色に変色した箆は越阪部家の歴史を物語るようで美しかった。まず、氏が子供の頃に父上に作ってもらった使いこんだナイフで、竹を細く裂いていくところを見せて下さり、次に、箆の底の部分から数センチ立ち上ったあたりから編んでいく作業を実演して下さい。

時折人生訓を交えた氏のユーモアあふれるお話も心地よく、3人の会員が編む作業に挑戦した。

編むというのは、細く裂いた竹を、立ち上がっている竹の、表を通し、次に裏を通し・・・という作業を繰り返すことである。



この時、前の段との間に隙間が無いようにすること、竹の表裏に気を付け、表だけが見えるようにすること、竹を足す時の継ぎ目を段差なくきれいにすること等、あちこちに注意を払いながらも、越阪部氏からは上手!!とほめていただいて終了した。



帰り際に数人が、自身の奥様へのお土産や蕎麦の盛り皿用にと笊を購入した。

会員が帰途に着いた後、氏がもう少し編んで笊の高さを出し、編み終りの部分を幅の太い竹でく
んだ完成品を会に寄贈していただいた。

(下の写真：3人の会員と越阪部氏の合作ざる、畑にあやめが咲き始めました。4月24日)



越阪部氏は、笊を製作している人と連絡を取り合って、安松笊を絶やさないようにと願っています。情報をお持ちの方は是非ともご連絡ください。 以上

担当・協力： 小林（Cグループ）、戸田（Bグループ）